

第2回花緑検討小委員会（8月23日）における 主なご意見等とその対応

次期に向けた県民まちなみ緑化事業の推進に関するご意見等（1/4）

	ご意見等	対応・回答
事業推進の視点	<p>緑の量を増やすだけでなく、質も大事である。質をどう定義付けるかが難しいが、考え方の一つとして、社会的な意義を持つ緑化を質が高いと捉えられないか。</p> <p>例えば、人の関わりという観点で、人数だけではなく、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人が関わっているということは社会的に意義がある。</p> <p>また、例えば、空き地に緑を植えることで、空き地が減少するなど、緑化することが地域の課題解決につながるということも社会的な意義を持つ。</p> <p>このような考え方で新しい指標を立てていくと、緑の面積だけではない事業効果を説明できるのではないか。</p>	<p>これまでの県民まちなみ緑化事業は、緑の量（面積）によって補助額が決まる内容となっており、緑の質によって支援内容に差異はありませんでしたが、次期事業においては、緑による効果が高いと認められる取組（※）に対して、補助率・補助限度額を拡充するなど、より重点的に支援することを検討します。</p>
	<p>緑の社会的な評価として、その場所に誰がどのくらい来ていたのかをカウントするだけでも重要な評価ポイントになると思う。高齢者や障害者がこれだけ来ているとか、そういった分析はやりやすい。</p>	<p>※取組例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良な緑地整備（緑地の規模が大きい、高木が多く植栽されている等） ・駅周辺や幹線道路沿道などにおける緑地整備 ・空き地、遊休地等の利活用による緑地整備（ポケットパーク等）
	<p>海外では、低所得者や移民が多い地区ほど、緑地の価値が高いというところもある。日本では、そこまで明確な地域の差がないが、例えば、公園の空白地域に緑化空間ができると、より価値が高いなどといったことは考えられるかなと思う。</p>	

次期に向けた県民まちなみ緑化事業の推進に関するご意見等 (2/4)

	ご意見等	対応・回答
校 園 庭 の 芝 生 化	実績が多かった初期の頃は時代の要請的な側面もあったかもしれないが、 プロモーション次第では、また実績が上がる可能性もある と思われる。	校 園 庭 の 芝 生 化 は、近年、実績が減少傾向にありますが、次期においては、見学会や説明会の開催、市町教育委員会への働きかけなど、より積極的なプロモーションを行いながら、引き続き事業推進に取り組みます。
	芝生の維持管理に関するアンケート結果については、「苦 労なし」との回答も1割弱ある。 もともと子育て支援として始まった施策でもあるので、今 後も伸ばしていきたい と思う。	
「 住 民 団 体 」 の 要 件 ・ 人 の 集 め 方	住民団体の要件が今の若い世代に合っていない部分は、ぜ ひ改善いただきたい。 コミュニティガーデンでは、最初は3人程度のコアメン バーで活動が始まり、それに賛同した人が集まってくると いう形が一般的である。そのようにして中長期的に活動し ている団体はある。こうした団体も「住民団体」に含めら れるよう要件を見直していただきたい。	非地縁型のコミュニティなど、多様な実 施主体によって緑化が推進されるよう、 「住民団体」の要件を再整理します。
	団体に対して（活動の広げ方や続け方等の） 人のコーデ ィネットに関する講習も行うと、中長期的な維持管理の担保 がしやすくなる のではないかと。	
	緑化資材へ支援だけではなく、例えば、 その場所でのイベ ントへの支援などがあると、その団体だけではなく、周辺 の地域の方も参加できる機会ができる と思う。ソフト面で 使えるメニューがあると、人を巻き込むといった波及効果 が大きいのではないかと。	

次期に向けた県民まちなみ緑化事業の推進に関するご意見等 (3/4)

	ご意見等	対応・回答
個人・法人への支援	<p>個人・法人に事業が活用されていないのは、補助率が住民団体と異なるため、当然だと思う。個人・法人の場合は、書類が少なくて済む等、具体的な手続き上のメリットがあれば、個人・法人にも事業活用されるのではないか。</p>	<p>手続き上のメリットを付与するのは困難ですが、質（効果）の高い緑化に対する補助拡充（補助率・限度額）など、個人・法人にも活用されやすい制度への見直しを検討します。</p>
	<p>法人による事業件数を増やしたい。 優良な企業緑化の取組を県が認定するなどすれば、企業も関心を持ってくれるのではないか。 工場や事業所など緑化に取り組んでいる企業も多い。そういった企業をサポートすること、サポートした結果をきちんとPRする体制を作ることが必要。</p>	<p>人口減少・高齢化が進展する中で、維持管理を含めた緑化活動を持続的に展開するためには、法人（民間事業者）による一層の取組が必要と認識しています。 質（効果）の高い緑化に対して補助を拡充したり、取組事例を県ホームページで紹介したりするなど、法人にとってのインセンティブとなるような取組を検討します。</p>
大規模メンテナンスへの支援	<p>駐車場や校園庭の芝生は経年劣化する。そのような箇所に対して、エアレーションや基盤整備など大規模な改修をするには、実技ワークショップの10万円では不十分と思う。 例えば、校園庭の芝生化の実施箇所5年、10年経過したところに対し、専門家を交えた改修工事を県民まちなみ緑化事業で補助対象とすることはできるのか。</p>	<p>芝生の維持管理の負担軽減のため、費用のかかる大規模なメンテナンスに係る支援のあり方について、実技ワークショップの制度見直しも含めて検討します。</p>

次期に向けた県民まちなみ緑化事業の推進に関するご意見等（4/4）

	ご意見等	対応・回答
暑さ対策	<p>「暑さ」への対策をもっと評価してもよいのではないか。夏の猛暑が日常になりつつある中、木陰や暑さ対策という面を推奨するような文言を入れたり、条件を設けたりできるとよいと思う。</p> <p>街路樹というと苦情があるかもしれないが、木陰や暑さ対策というと高木を植えられる場所もあるのではないか。</p>	<p>次期事業においては、夏季の異常高温対策に貢献する緑化の取組について、より積極的な支援を行いたいと考えています。</p>

事業実施者アンケート・実感アンケートに関するご意見等 (1/1)

	ご意見等	対応・回答
事業実施者アンケート	設問数が少し多い気がする。回収率に影響が出ないよう、可能な範囲で設問を減らした方が心理的な負担が少ないと思われる。	一部の設問を削除・整理し、回答に際しての負担を軽減しました。 なお、アンケートの最終的な回答率は約7割でした。
	芝生の種類とオーバーシードの有無を問う設問は、実施者全員がそこまで詳細に把握していない場合も考えられるため、「分からない」という選択肢を用意した方がよいのではないか。	芝生の種類に関しては「分からない」の選択肢を追加しました。 オーバーシードの有無を問う設問は回答者の負担軽減のため、削除しました。
実感アンケート	不特定多数の者が利用・往来する場所でのQRコードによるアンケートはいいアイデアだと思うが、多くの人から回答を得るためには、例えば花の種をプレゼントするなど、何らかの方策が必要ではないか。	東遊園地（神戸市）での実感アンケートに関して、より多くの来訪者から回答を集めるため、以下のような取組を行いました。
	近くのカフェに協力してもらってお客さんにチラシを渡してもらったりするといいいのではないか。 また、直接対面で記入してもらおうのもいいと思う。	 <ul style="list-style-type: none"> ・ QRコードを記載した看板を現地3か所に設置又は貼付 ・ 看板には子どもが興味を引くようなイラストを掲載 ・ 当該花壇を管理運営する団体の協力を得て、団体の講習会において参加者（約20名）に周知 ・ WEBアンケートに加えて、現地での対面アンケートを実施
	親子連れをターゲットに、子どもが興味を持つような仕掛けができれば効果的と思われる。	